

# アトリエ通信

号数 創刊号	発行日 昭和 61 年 5 月 5 日	発行場所 釧教大絵画研究室
-----------	------------------------	------------------

雑 感

新井 義史

5月を迎え釧路にもやっと春めいたうららかな日差しが感じられるようになってきました。卒業生からの返信が次々とアトリエに届き、4月26日頃には3通ほどが速達で送られてきました。懐かしくかつ楽しく読ませてもらいました。また、皆さん元気に活躍中であることが確認でき嬉しく思いました。

返信のあった11名のうち、教職についている者が4名、教職以外の公務員が2名、民間企業が1名、主婦が1名、教職予備軍3名と、なかなかバラエティに富んでいます。

卒業以来、それぞれが自分の選んだ職業と環境の中で日々奮闘していることと思いますが、現在の冬々の生活感情をよりリアルに伝え合うことで、この「アトリエ通信」を単に慰めあいに終わらぬ、新たな刺激となるような、活発な情報交換の場として活用してくれることを期待しております。

さて、この欄では私が感じたこと、考えていることを思いつくままに書き綴っていきたいと思います。

## 「制作をしていないこと」について

送られてきた返信の中で制作について自己批判的な文面が数名にみられました。該当者は性格的に真面目な人であると判断できます。決して真面目で無いとは言いませんが、麻子さんなどはマムシやタヌキを採るのに忙しく、ムコ採りに夢中の松隈さん、半袖で田植えの教習所に通う安永さんなどは絵筆など全く眼中に無いかのごとくの生活が感じられます。価値観の問題にすぎないのですが、自分の生活にとって絵を描くことが必要ないのであれば描かなくても良いと、私は思います。

大学にいた数年間、絵を描いたことが、その人に一生描くことを強制し続けたとしたらそれは苦痛でしかないでしょう。むしろ、もう二度と絵は描かないゾット決断できる人間のほうが精神面で健康でいられるのかもしれない。

巷にあふれる素人画家、有閑マダムのカルチャー絵画、彼らには美学的価値観も美術史における様式の変遷も意識がなく、じょうずに描きたい、ただそれだけです。そして、その段階が絵を描くことを最もエンジョイできる時期であると思います。卒業した皆さんは、上手に描けてあたりまえ、何のために描くのか？ の段階に入っているのですから、その段階での目的意識が明確にならない以上、描けなくても当然であると思います。自分の

生活に本当に必要になった時、絵を描くことを再開しても決して遅くは無いですよ。

美は心の内にあり、と言われるように美しいものを感じとれる心が最も大切です。逆にくだらないものをそれとして見分けられる鑑識に満ちた眼を持つことが大切です。描くことにいきづまりを感じている人がいるとしたら、義務感の中で制作しつづけるよりも、むしろ評論家的観点にたち、一から絵画自体の存在を考え、基本にたちかえって学ぶことから取り組みなおしたら良いと思います。

私ごとですが、先日椅子を買いました。ハーマンミラー社のイームズチェアなるものですが、これがたいへん具合が良い。10時間位掛けていても少しもシリが痛くなりません、ですから、喜ばしいことについて腰掛けて、勉強してしまいます。

これまでは、食卓5点セット¥27000 などのイスの一つを使っていましたが、1時間も座っていると逃げ出したくなる程の疲労感に襲われていたのですから、この違いは金に換算できないほど大きいと言えます。

生活にとって機能的かつ美しいものはこころを豊かにしてくれます。本当に良いものを自分自身で選びだせる力を養うことも美術の重要な役割の一つです。さしでがましいようですが、松隈さん見掛けにだまされない優良家具をえらびなさいよ。

次にまた私ごとですが、転居しました。

ご存じのかたはご存じでしょうが、寮の隣のブロック造りの官舎です。これまでの興津の家と比べると多少狭くはなりますが、なにせ公園、大学付きの好環境ですから狭くてもボロくても寒くても我慢できます。

転居のついでに家の中から蛍光灯を排斥しようと考えています。以前ヨーロッパに行ったとき部屋のあかりがたいそう暗く、フローには本もろくに読めない程の白熱燈がひとつもっているばかり。彼らは何を考えてこんな暗い生活を送っているのだろうと、不思議に思った経験がありましたが、近ごろやっとそれらの意味が解ってきた気がします。

つまり、蛍光灯とは仕事場のためのあかりであり、家庭ですらぐためには暖かい色を持った白熱燈が望ましいこと。そして、電力会社と電気器具メーカーの作った標準照度に踊らされて、夜を昼に変えることの無用さが・・・。

あかるくないことが夜であるという、極めてあたりまえのことがあたりまえでなくなってしまう今日、本当の夜を実生活の中で再認識してみたいこと。そして、青白く冷たい蛍光灯の人工的な光を、人間味に満ちた穏やかな白熱燈に変えること、そんなささやかな変化の中にもきっと新たな発見があるだろうと考えています。

さて、この通信はアトリエの卒業生のためのものであると同時に、その後を追いつけている在校生のためのものでもとも言えます。現在在校生8名にもこの創刊号から配付したいと思います。その教育的な意味からも、今後発行される記事のために、実社会に出てまさに奮闘している卒業生からの生の状況報告を寄せられることを切に希望しております

4月30日 引っ越したその日で、まだ荷物が散乱した自室にて

神 史明 ————— 57年卒

御無沙汰しておりました。申し訳ありません。昨年新聞で先生のお顔を拝見いたしました。十勝・帯広では、バルビゾン展や、美術館問題等で、造形芸術に対する関心が高く、浦幌のような小さな町でも5つほどのグループが活動しております。

私は、一年間に小さな絵を数枚と銅版画を少しというところで、もっぱら本を読んでいます。興味をもてたのは、昨年11月ごろ書店でみつけたネーベハイ著「クリムト」（美術公論社）とつい最近読んだ高階秀爾著「美の思索家たち」（青土社）です。

アトリエ通信 楽しみにしています。

坂下 麻子 ————— 57年卒

60年3月に退職し、岩手に嫁いでもう一年になろうとしています。夫の都合でこの4月転勤になり、今は「日本のチベット」ともいわれる北上山中の小さな小学校の住宅に住むことになり、大自然と日夜闘っております。

こちらはツキノワグマなので安心ですが、「マムシ」が出るので山菜採りも命懸けです。このあいだはタヌキが国道を横切りました。

そんな中で私たちにもめでたく『ややこ』ができて10月6日出産の予定です。釧路に7月頃から帰って里帰り分娩しますので、連絡先が一時変わります。

釧路市武佐1-36-3高橋様方

小林 広勝 ————— 58年卒

皆さん御無沙汰しております。アトリエ通信発行準備号を読みなつかしさに酔いしれてしまいました。

やっぱり学生さんは一番良いな！言いたい事言って、やりたい事やって……。ともかく創刊号を楽しみにしています。

松隈 恵子 ————— 58年卒

みなさん、いかがおすごしですか？  
私はあいかわらずですが、名前が変わることになりました。6月7日からは「ナカヤマ」となります。住所はかわりません。（ムコドノをもらうのだ！）  
なんちゃって……



卒業してから2年たちましたが、アトリエの皆さん、元気で日夜頑張っておられるでしょうか。

今年で中学校の美術教師として3年目に入ります。この春転勤となり、山口県熊毛郡平生町立平生中学校に赴任しました。規模の大きい学校で、一年生と三年生の美術を教えています。アトリエを卒業して、学生との縁が切れ、社会人になり、アトリエの皆さんやアトリエを卒業した同期、先輩方の交信などがまったく途絶えてしまったところ、このような、アトリエ通信という企画、発行をするということで、たいへんうれしく思っていますどうか、この通信を期して卒業生、アトリエの皆さんとの何かの橋わたしとなれば、刺激にもなり、また近況などもわかるので、回を増すごとにより充実したものが長く続けばと思っています。

アトリエ卒業生もアトリエの学生ももっと美術を勉強していきたい、身につけていきたいという気持ちは皆同じだとおもいます。いろいろ情報交換をして頑張りましょう。

公（学校予算）、私（薄給）ともに貧困ななかで事務屋稼業に励んでいます。就職してから覚えたこと

- 一、電話のかけ方
- 二、管理職の扱い方
- 三、物の値ぎり方

苦勞の割に身入りの少ない商売です。絵ははっきり言ってほとんど描いていません。何かに追われるように日々が過ぎます。学生時代というのは実にいいかげんかつ、良い日々だったとしみじみ思います。

拝啓、皆さんお元気でしょうか。僕は元気です。（2行略）さて「アトリエ通信」やはり本当に発刊されるそうで、たいそう感心しております。卒業してみると、そういう母校からの便りはうれしいものだと思います。

会社の近況ですが、4月1日付けで会社に入り、ついこの間、それまで近代美術館のそばにあった会社も大通り東7丁目に引っ越しして、新しい営業所にて仕事をしています。

僕はアトリエの皆さんご存じでしょうが、データイースト株式会社というゲームソフトメーカーで開発部（正確にはレジャーエレクトロニクス開発部）に所属、ゲームの企画として働いているんだよーん。

今は、4月から11月までの間に1ゲームつくるプロジェクトチームをつくってその企画案をねっています。東京が本社なので東京の荻窪の研究所というところに月に何回か企画会ギに出張していかなきゃなりません。なかなかハードな忙しさです。これからさらに忙しくなる気配です。でも、1ゲームできあがる頃には休みがもらえそうなのでヒマになっ。そちら釧路に遊びに行くつもりですから、首を洗ってみんな待っているよーに。もち

ろん、おもしろ館にもいきますよー！  
釧路のことを思い出してみるとやっぱりなつかしいです。

(以下アトリエの在校生各個人にむけてのメッセージのため45行略)

【右の写真は山中君の仕事場でのスナップです。左から2人目が本人】



## 高田健二

60年卒

釧路地方もいちだんと春らしくなりました。ぼくは、今、釧路北高、東高の非常勤をペアでやっています、北高は、おとなしい生徒が多く、東高は元気はつらつの生徒が多いようで、それぞれです。しかし何ととっても、東高は、立方体型の高校で、利点は、だんぼうが

すごくゆきとどいていているということです、その点北高はさむいですが、ところで今年の教授は、まずバッチリで、おそらく余ゆうで採用の見通しです、それというのほの勉学の効率のよさにつきるでしょう、また ぼくはえらいことに毎日弁当を高校に持っていきます、ぜひほめてほしいです、できれば、何かおごってくれればそれ以上は望みません、

また 絵画の方も、もう描くものは決まっております、釧美展に 100号 (5月着手)、道展には 150号 (8月着手) する予定であり、東高のアトリエで描きます、

まあ、入賞はまず間違いなく、問題は最高賞が取れるかが問題です、しかし 最高賞も軽くパスするでしょう、うらやましいと思うかもしれませんが、あきらめることがけんめいです、

最後に もしよかったら ぼくに お歳暮をください、すれば、すばらしい お返しをします、

86、5、2、 旧安藤宅にて、

## 川守田 広章

61年卒

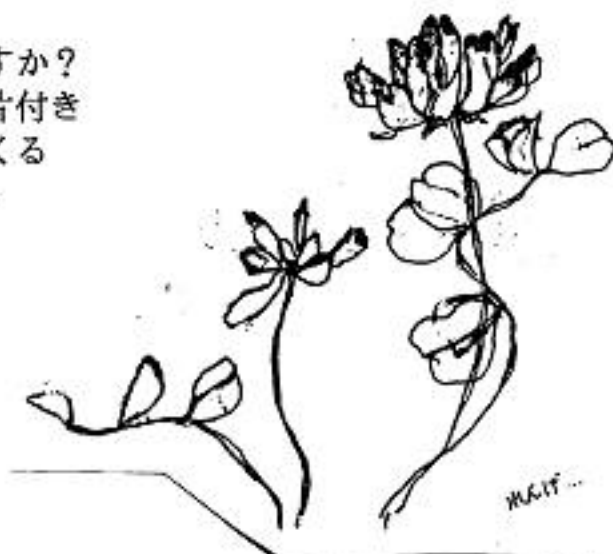
アトリエの諸君元気ですか？ もうそろそろ釧路も暖かくなり、また新2年生を向かい研修旅行や丘馬展の準備というところかな？ まだ釧路を離れて3週間程だけどなつかしかったり、また、自分のいないアトリエが普通なのだと思うと不思議だったりしてます。

僕のほうは、こちらの生活にも慣れマイペースに進んでおります。ただ美術館等に行きいろいろ刺激をうけ欲求をかきたてられているのですが、まだ筆を持つにいたってないのが残念です。アトリエという空間はとても貴重だったのだと感じています。諸君も有効に利用して下さい。アトリエの健闘を願う、新井先生も元気でがんばってください。

新井先生、アトリエの皆さんお元気ですか？  
こちらに帰って1ヶ月、ようやく荷物も片付き  
落ち着きました。臨教の話は依然としてくる  
様子もないので、塾の講師を始めました。  
昼は教習所に通っています。今のところ  
は補習もつかず順調 エヘ...

愛媛は暖かくもう半袖で歩けます。  
私も今日は半袖を着てみました。この  
間までれんげだった田んぼでは田植え  
の準備が始まりました。

アトリエ通信たのしみにしています。



前略 教育大の皆さん 元気ですか。  
自分の方は今も何とか生きています。運が良いのか悪いのか小さな小学校の4年生(7人)  
の担任をしています。

「秋山先生」という声がやっと耳に痛くなくなってきましたが、やはり未熟者の自分には時に胸につきささるような響がするときがあります。教員生活は楽じゃないと思っています。この意味はなった者じゃないと口に出せないようです。

ところで先日「アトリエ通信」の連絡を受けました、自分も南の都(今は唐津 karatsu-city)にいますが北の都、母校そして、新井先生(教官)の季節だよりを手にしたと思います。

一言の欄がありましたは何をどのように書けば良いのか? うまくも文章をかけないのですが、まっ、自分の近況ということでごかんべん願います。

学校につとめに出るようになり、何となく絵をかくことから遠ざかったなって思います。油絵の具のかおりがとてもこいしいのです。時おり出むいていく展覧会・グループ展の絵を見ると「このくらいの絵はかけるぞ」って思ったり「いいな絵がかけて」とこぼしたりしています。言いわけでしょうがやはり絵をかく心のよゆうがないのです。何とかと思っています。

ガキ(子ども)たちが筆を握ってかいているのをみると、時おり彼らをそっちのけにして自分もスケッチ、クロッキーをかいています。時おりです。小学校の先生しているとまるっきりかけない(下手な)子や興味のない子、そして好きな子といろいろなタイプの子に教えるのです。4年生(7人)が全部同じ色やなんかで個性をつぶすのはさげたいし、と大学で絵が好きでかきたいと思っている人に教えるのとはわけがちがうことに最近わかりはじめてきました。「これから どうやって教えていけばいいのか」というむずかしい問題に その門の前に立ったようです。

大学時代は良き日々だったと思います

苦い思い、甘い思い、暗い思い そして自分(正直な自分)との戦いがある、それも勝ったり負けたり、そう思います。(以下 アトリエへのメッセージ12行略)



## 渡辺 弘樹 「キャッチボールが唯一の生きがい」————— 4年

先輩の皆さん こんにちは お元気ですか 私も4年目になり、先輩といわれる立場になりましたが、まだ実感が湧きません。ただ2か月後の教員採用試験が重く頭にのしかかってきています。

最近教採のための勉強と、そのあい間のキャッチボールをして毎日を過ごしております。単調な生活ですが、来年の春には、何かいい就職についていたいと願う毎日です。絵画の制作については、今年からテンペラを研究しているので、展覧会、卒作へとつながるように作品を描いてゆこうと思っています。それでは皆様お体に気をつけて・・・アトリエにも遊びに来て下さい。それでは。

## 菅谷 蒼紫子 「とりあえず勉強する私」————— 4年

みなさんお元気ですか。私は4年目の菅谷 蒼紫子です。私が入学してから卒業した方もすでに7人、みなさんには私や渡辺君が4年生になったなどとは信じられないのではないのでしょうか。私自身今だに実感がありません。しかし、何と云っても4年生、教員採用試験が間近にせまってまいりまして、そろそろあせりを感じずにはおれない今この頃、とりあえず勉強しております。又、丘馬展・卒作等の制作の時期ともなり、本格的に取り組まなくてはと考えております。

今年アトリエは、パーキング方式という新しい方式を取り入れ今までの雰囲気とは少々かわっておりますが、例年より掃除が行われ、少しはきれいになった(?)と思いますのでみなさん遊びに来て下さい。

## 宗森 研介 「爆発サ！」————— 3年

川守田さん、安永さん、山中さんが釧路を離れてゆかれたのがついこの間、きのうのできごとのような気がします。尚、高田さんは健在ですので御心配なく。アトリエは、4年生、研究生を送り出し、新しく3名の2年生を迎えました。

僕も3年生になりこれから、自分自身の新しい世界を創造してゆきたいと思います。今年、アトリエのパワーを大バクハツさせてみせるゾ。

朝野球がんばります。みなさん おたよりください。

## 河村 絵理子 「私はアトリエの玄関番」————— 3年

さあ、自己紹介文を書こうと構えてみると、うーん、何も浮かばない……。これは自信を持って書けるような今までの積み重ねも確固としたこれからの計画もないことと自己紹介の必要がない慣れ親しんだ環境の中だけでぬくぬくと過ごしてきたことが原因ではないかという気がしてしまいます。(謙虚だなー) 地元出身で、美術がやりたくって美研に入り、油絵が描きたくて絵画研究室に所属したわけですが、本などで見るいろいろな作品にただただ目を見はるばかりで、さて自主制作となると、自己紹介文が浮かばないのと同様に、自分の中が空白であることに気づき寒々とする今日この頃、絵画の入り口で立往生しているのが私です。



篠塚 智子 「上品にまとめてみました」 ————— 3年

絵画研究室OBの皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は3年生の篠塚智子と申します。私の名前をご存じの方は数えるばかりでしょうが、今回、このような企画に恵まれて紙面ではありますが、発行を重ねる度に少しずつお近づきになれることを、喜ばしく思っています。

制作は釧路の霧のごとくモンモンとしています。描きたいなあとキャンパスにむかうのですが、そこから先がはかどりません。夏期講習の際には是非ともご指導お願いします。旅行、スポーツ、ドライブ大好きの子でした。

大橋 拓 「構想を練ること=何もしないこと」 ————— 2年

今年アトリエに入った大橋です。卒業された山中さんには【あいかわらずヒマなやつだなあ】といつも注意を受けていたように、自分から絵を描く行動になかなかうつれません。

3・4年の先輩方からもよくおしかりをうけ、ひんしゆくを買っています。ちなみに私はAB型です。そういえば冬・春休みにも、ギリギリに釧路に帰ってきて、新井先生に破門を言い渡されました。それでも立派な作品を描こうと構想を練る毎日です。

こんな私でもアトリエの一員となれるでしょうか？

松久 充生 「私はこんなに愉快的な人間です」 ————— 2年

本名、松久充生。自称、本名と同じ。出身地札幌。学年2年。男。血液型AB頭正常知能普通。周囲の人の私への認識、馬鹿。自認、正常。アトリエにおける私のリエゾンディール、周囲 無し。教官、？おそらく無し。自認、潜在意識下での野心。哲学、好き。ニーチェ、好き。ソクラテス、無罪、好き。思想秘密。社会的通念有り。現実、見える。非現実、わからない。聖書読む。ギリシア神話好き。宗教、無し。信念有り。女いない。好き。女 邪馬。絵、日常生活における美的感覚の表現（潜在意識も含む）趣味、皮肉。OB、知らない。OB、ゴルフのガター。好きな画家、ダリ、キリコ。嫌いな画家、シャガール。コンパ、疲れる。酒、嫌い。タバコ、好き。以上、私の自己紹介、ただし、紙に書いて紹介できるほど単純にはできていない。

アトリエ通信、ノーコメント。

伊藤 恵理 「会計だから、丘馬展には絵一枚でいいの」 ————— 2年

3人しか入れなかった狭き門をくぐりやっと絵画研究室2年になりました伊藤恵理です。アトリエに入ってすぐ会計になり、何かと忙しく走りまわっています。よく言えば責任感が強いのですが、どうも、一度手をつけた仕事は時間がかかっても最後までやりとげないと気がすまないタイプで、仕事が増える一方です。

ですから、せっかく広いアトリエ、道具がそろっているというのに制作にはいりきれない状態です。7月末頃には丘馬展も企画されていることだし、まずはそれに向けて構想を練るばかりでなく、絵画一枚でも手がけていこうと思っています。

**アトリエ近況** パーキング方式にて新装開店

部屋というものは人がつくるものであり、生活する人間の行動によって生きもし、また死にもします。こんな昔ばなしがあります。

むかしむかし私が釧路に来た当初、アトリエには「アトリエのおそうじオバサン」との異名を持った、朝・昼・晩一日3度のおそうじを欠かしたことの無い、まつかまさんというエライ学生さんがいました。そのおかげで、周りの学生さんは幸せにせせと絵を描くことができました。それを見ていた神様は、まつかまさんにムコをとらせました。まつかまさんがいなくなってからのアトリエは、ほこりが積もり絵を描く人も少なくなっていました。しばらく生協委員や大学祭の委員長に出稼ぎに行っていた、ただくんという生来潔癖性、ときには過激な行動体系を持った学生さんがアトリエに戻ってきて、そうした荒れ果てた現状にいらだち、「おそうじオジサン」として活動を開始すると同時にアトリエのヌシとして早朝から絵を描き続けました。そんな立派なただ君の仕事ぶりに、多くの下級生は制作の面では感動を覚え、影響を受けましたが、おそうじの面では少しも協力しませんでした。いらだつただ君は、ついに灰皿を全てゴミ箱に投げ捨て続けるという強硬手段に出ましたが、周囲の学生さんは相変わらずおそうじには無関心でした。そんなただ君には、神様はこなしきれない程のあちこちからの非常勤講師のお仕事を与えてその労に報いました。おそうじをしっかりする学生さんは結局みな幸せに暮らしましたとき・・・めでたしめでたし。

掃除しない、片付けない、ごみを捨てに行かない = 絵を描かない、勉強しない、何もしない。この相関関係は私の目から見て、いよいよ明確になってきました。「一時が万事」とは良く言ったもので、基本的なことが出来なくて大切なことができるはずがありません。複数の人間の中で生活している者で、その生活環境を整えないで自分だけが活動できると考えることは、間違ったエゴイズムであり、結果的に自らの活動範囲に制約を与えていることに違いありません。

そうした観点から、アトリエの使用方法を今年4月からパーキング方式(高田君命名)としました。すなわち、従来のような個人持ちのイーゼルを私有の場所に固定し、仕事をしなくても、片付けをしなくても安住出来る状況では無く、イーゼルとキャビネットは北側の部屋隅に全て整然と保管し、その日その日に、早く場所をせ占めた者が一日に限り優先的に好条件のスペースを確保できるという下克上の世界となったわけです。また、デザイン研究室の室生が増えたことで置ききれなくなった、応接セットの黒いソファを利用した「くつろぎコーナー」、新品の演習机4台による「学習コーナー」と、アトリエ全体が極めて機能的に組み直されました。

新方式によるアトリエの快適さは、実のところ、提案者の私だけの自己満足に終わっているようで、現実にはまだまだ制作のために有効に使われているとは言い難いところがあります。せめて、ふたり程でも、使いこなし得る学生が出現すれば、極めて有効な方式であることが実証できるのでしょうか・・・。

ともかく、今はイーゼルとキャビネットが片付けられてことによって生まれた、あまりに広い空間の利用方法を、バットを素振りするくらいにしか思いあたらずあります。そして、制作のためのスペースよりも、「くつろぎコーナー」を目当てに集まってくる他専攻の学生諸君達のための憩いの場所となっているようで、いかにも情けない気がしております。この表題にも書きましたように、新ハウシキのスペースが制作のための効果的なスペースとなりうるか否か、そして同時に、そうじ・かたづけを自主的に行うようにできるか否か、それらの結果は次回のアトリエ通信にてお知らせしたいと思います。(新井)

最近のほっとな情報を思い付くままに・・・

- ◇ 61年3月の美術科卒業生のゆくえ
  - 山口君 (デ) 千葉県銚子付近の中学校教師に就任
  - 金阿弥君 (工) 千葉県左原あたりの中学校教師に就任
  - 堺さん (教) 旭川のクラレインテリアに就職
  - 佐久間君 (彫) 実家から臨教中
- 60年3月の美術科卒業生のゆくえ
  - 安藤君 (デ) 札幌分校の専攻科終了後増毛あたりの中学校教師になつたらしい
  - 稲場さん (デ) 別海の中学校教師に勇んで就任
- △ 葛西君 帯広で臨教ののち、4月から釧路東中の教師にめでたく就任
- ▽ 加藤開 (工)・深田 (デ) 両君は3月末から鶴居の養成邑の正規職員に
- ハゲボルグとの異名を誇った、佐藤理先生 (体育) 福島大へ転任
- ◆ 秋山君の天敵、竹内先生 (音楽) 兵庫教育大へ転任
- 柏村先生 (国語) 停年退職後、国学院女子短期大学 (滝川市) に再就職
- ⇒ 錦谷先生 (デ) 来年の停年退職後の再就職先を物色中
- ※ 福井先生 (美教) の息子さん金沢大に合格
- ♥ 村山先生 (書) 1月末に女兒誕生、冬に生まれても名前は悠ひなな
- 新井先生 (絵) の奥さん大分腹が大きくなる。予定日は7月2日
- ㊦ 58年度卒業、松隈恵子さん 6月7日中標津町「寿宴ウエディングホール」にて挙式！  
ご相手は中山裕一氏
- ☆ 加藤先生 (工) 4月に軽の新車を購入
- ♣ 長谷川先生 (彫) 冬頃に白の「ニュークラウン」を購入
- ※ 新井先生 (絵) 維持費節約のため、そろそろ車を売る予定
- ↓ 大学斜め前の「おいでおいで」潰れて今や空き地に
- ✕ 61年度の美術科新入生は中学校課程5名、小学校課程1名の計6名  
内訳は函館北、島根県根雨、広島県五日市、夕張北、北広島、滋賀県伊吹の男のみ6名。

【受信者住所録 一覧 (61,5現在)】

氏名 (旧姓)	住所	電話番号
新井 義史	① 085 釧路市鶴ヶ岱 1-6-6	☎ 0154-42-5701
神 史明	① 089-56 十勝郡浦幌町万年339 浦幌中学校 内	
坂下 麻子 (高橋)	① 028-56 岩手県下閉伊郡岩泉町門字西雷峠 44/25	☎ 0194-25-4505
小林 広勝	① 046 余市郡余市町富沢町 7-2	
松隈 恵子	① 086-11 標津郡中標津町 東2南6	
内山 博之	① 742-21 山口県大島郡大島町東三浦 729-1	
阿部 智美	① 086 根室市厚床 2-226	
秋山 希嘉	① 847 佐賀県唐津市大名小路 5-1	
山中 哲也	① 064 札幌市大道り東4丁目2の3 おおたビル 601号室	
高田 健二	① 085 釧路市住吉 2-2-3	
川守田広章	① 064 札幌市中央区円山西町6丁目2の4 旭山ハイム	
安永 秀子	① 793 愛媛県西条市神拝甲 234の4	

編集後記

アトリエ通信創刊号をおとどけします。今回は関係者全員からのひとことを収録しました。卒業生からは12名の該当者のうち11名からの返信が得られ、特集1に関してはほぼ、初期の目的を果たすことができました。

仕事を持っている人間にとっては、手紙を書くということはなかなか大変な作業でありそれは、25日の返信締め切り後数日の間に、速達で次々送られて来た様子を見てもわかります。しかし、何もしないでいて何かを得られるようには世の中はできていませんから、知人の動向を知るためには、自分の動向を知らせることからまず始めなければならないでしょう。その点からいえば、今回記載された19名には、「通信」を受け取る資格があると言えることができるとおもいます。

創刊号ということでもあり、私(新井)が総編集しましたので、多少まとめかたに偏見があったかとも思います。次回からは在校生に編集をお願いしようとかんがえています。

記載した文面につきましては、各人の持ち味を損なわないよう、句読点、誤字、脱字等があった場合でも、原文のままタイプ打ちしてあります。

今回の編集を終えて思うことは、返信等の記事が期限までに集まれば、編集・タイプ打ちは極めてスムーズにいくということです。今後、何号までこの通信が続けられるか解りませんが、受信者の熱意が作り上げるものであることを、あらためてここで強調しておきたいと思います。

なお、費用については準備号において、2年間で千円としておきましたが、案外郵送料というものもばかにならぬものであることが解ってきましたので、少し様子を見たうえで改めて決めることにしたいと考えていますのでご了承ください。

次回の発行は9月の予定です。それまで皆さんお元気で活躍されますよう祈っております。

(新井)